

2022年9月21日

東京大学医学部健康総合科学科 卒論生

佐藤 詠美

糖尿病患者の食事改善に対する自己管理支援 ICT システム DialBetesPlus の有効性の評価

2型糖尿病および糖尿病によって引き起こされる糖尿病性腎臓病(diabetic kidney disease: いか DKD)の患者数は年々増加しており、今後も増加が想定される深刻な課題である。患者が食事内容と運動習慣を改善することによって、適切な血糖コントロールが可能になり、DKDをはじめとする糖尿状の合併症を予防することに繋がる。

今回、DKDを有する患者に対する自己管理支援 ICT システム DialBetesPlus の有効性を評価するために行われた前向きランダム化非盲検多施設共同臨床試験を扱う。対象者は微量アルブミン尿を有する2型糖尿病患者で、システム使用群と非使用群の間で主要アウトカムとして12ヶ月後の尿中アルブミン濃度を比較した。本研究では、この臨床試験の副次的アウトカムとして得られた患者の食事データの分析を行う。

食事データは介入前、介入期間の中間、介入後、介入終了後6ヶ月の4時点で取られており、各時点につき3日間の自記式食事記録表である。自記式食事記録表は、実際に消費された食品の正確な定量情報を得ることができるため食事法のゴールドスタンダードと考えられている手法であるが、複数時点で行なって得られたデータを経時的に評価した研究はほとんど存在しない¹。

抄読会では、本研究の対象と方法、現時点で得られているベースラインについて発表する。次に現状で用いる予定の統計手法とデータの標準化について説明する。

【参考文献】

1 Rosa M. Ortega¹, Carmen Pérez-Rodrigo² and Ana M. López-Sobaler, Dietary assessment methods: dietary records, Nutr Hosp. 2015;31(Supl. 3):38-45